

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	61	学校名	静岡県立小笠高等学校	校長名	新林 章輝
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立と社会性の育成（協働力）	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、時間、服装の習慣化とマナー向上を心掛けた生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート肯定回答98.1% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も継続した指導を行っていききたい。
		<p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間を守り、身だしなみを整え、マナー向上を心掛けて生活できる。 全遅刻者のうち不注意遅刻の生徒10%以下。 進んで挨拶をし、相手を思いやる言葉遣いや振る舞いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶・時間・服装の習慣化とマナー向上を心掛けた」生とアンケート100%。不注意遅刻は10%以下である。 正しい制服の着こなしは、特にスカートの長さを守るようになった。 昇降口や廊下での挨拶は相手に聞こえる声のできる生徒が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を通して、「時間を守る、提出物の徹底、ルールを守る」を柱に、折にふれ、生徒へ自覚を促す声掛けを行った結果、多くの生徒が基本的な生活習慣が身についた。今後もこれらを維持し、校内校外問わず良い振る舞いができるように、生徒の意識を高めたい。
		<p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体性を持って行動できた生徒70%以上 2日以上連続して欠席（出席停止等を除く）しない生徒80%以上 提出物を期限内に提出する生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートより89% 皆勤～1日欠席45%保健室より60%程度 生徒アンケートより76% 	A B B	<ul style="list-style-type: none"> 年次集会や日々の生活の中での声掛けの成果。 目標設定が調査しにくいものであった。 日々の生活の中での連携（担任・教科担当・部活動顧問等）が必要であった
		<p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体性を持って行動できた生徒70%以上 2日以上連続して欠席（出席停止等を除く）しない生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでは生活、学習ともに主体的に取り組む生徒は70%を超えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> クラス、授業、部活などさまざまなところで主体性を育む指導ができている。 欠席理由はさまざままで今

様式第3号

		80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・2日連続で欠席した生徒はおよそ30名程度である（入院出停等を除く）。 ・提出物の期限は92.7%が提出できた。 		後この目標の見直しが必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・提出物を期限内に提出する生徒80%以上 ・交通事故・違反数 年間 10 件以内 ・自転車の未施錠点検を週1回行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の交通事故件数2件 ・「交通事故・違反がない」生徒アンケート肯定回答98.7% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や違反件数は少ないがヘルメット着用を推奨していきたい。
イ	安全で安心できる学校生活の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練参加率85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練参加率78.6% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する意思がなかった生徒が多かった。地域防災訓練を実施しない地区や地区ごとに日程が異なるため、調整や対策の検討が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の伝達研修及び校内研修の実施 ・人権意識の視点に立った教育を適切に行っている職員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価に関わる教職員アンケートにおいて「人権教育資料や研修報告の共有および啓蒙活動により、人権尊重の精神に基づいた教育活動を行った。」と回答した教職員は87.2%であり、概ね達成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価に関わるアンケートにおいて「学校は、人権意識の視点に立った教育を適切に行っていた。」と回答した生徒は91.3%、保護者は85.6%であった。来年度は100%を目指して教職員一人一人が意識して取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題や悩みを持つ生徒に対し、必要なケース会議を迅速に実施している。 ・相談しやすい雰囲気が整っていると思う生徒75%以上 ・「心の健康状態調査」を年2回実施し、個別データに対する確実な支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議は3件実施 ・学校評価に関わるアンケートにおいて「悩み事などを気軽に相談することができた。」と回答した生徒は79%であり、目標を達成することができた。 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有を図るとともに具体的な対応策を検討することができた。 ・学校評価に関わるアンケートにおいて「学校は、生徒が相談しやすいような雰囲気が整っている」と回答した保護者は76.9%、「相談室、保健室、カウンセラー、担任等が連携し、生徒のケアを行えた」と回答した職員は86.9%だった。来年度は学校と保護者が連携し、生徒の問題を解決する方法を探ってい

			<ul style="list-style-type: none"> アンケートは予定通り2回実施。適切に対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 未回答生徒への声掛けを徹底し、迅速に集計できるよう心掛ける。
		<ul style="list-style-type: none"> ごみの分別・削減を心掛けている生徒 90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員ともに校内美化の高く、目標達成できた。(生徒 95.2% 教員 95.0%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の校内美化活動として、トイレの見回りを行った。不要なもの、壊れた掃除用具を撤去することで、清掃用具入れの整理整頓ができるようになった。 部室の整理整頓を徹底するため、月1回のごみの回収を行ったことも生徒の意識向上に繋がった。
ウ	基礎学力の定着と主体的な学びの実現 (探究力、協働力、設計力、継続力、発信力)	<ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に取り組んでいる生徒 80%以上 宿題や課題を確実にやり、提出物を出せる生徒 75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に主体的に取り組んでいる生徒 97.5%。 期限までに提出物を提出できた生徒 92.7%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の科目選択などを丁寧に行っているため、授業への意欲を高めていることができる。 担任、担当者がクラスルームなども活用して連絡を行うことで提出率が高まっているように感じる。
		<ul style="list-style-type: none"> 「高校生のための学びの基礎診断」結果を関係教員と共有し学習指導の改善に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員 44.7%が肯定。スタサポの結果を年次や教科と共有することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年次ごと結果報告会を実施できた。さらに有効に利用する方法はないか検討したい。
		<ul style="list-style-type: none"> 授業に満足している生徒 80%以上 授業評価の結果を活用する教員 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に満足している生徒 91.6%。 授業評価の結果を活用する教員 84.6%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の科目選択などを丁寧に行っているため、授業への満足度は高い。 教員数の減少から科目選択の生徒を選抜するなど、科目選択について現実的な対応をしている。 前期よりも後期に実施した授業アンケートの方が10項目中8項目で肯定的な数値が増えている。教員1人1人が授業改善を進めた結果と考えられる。

		<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の実施により、落ち着いて学校生活をスタートすることができた生徒 90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書時間を有意義に過ごすことができている。91.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の習慣が定着している。クラス文庫や移動図書を充実させることが今後の課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> 1年次は探究サイクルの学びを重視、2年次は探究したい問いの発見を重視、3年次は成果を伝え、活動実践を重視して取り組んでいる。 	<p>【教務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次 93.6%、2年次 93.7%、3年次 97.4%が探究活動を肯定的に振り返っている。 「課題研究発表会」の成果発表に対する生徒の肯定的評価 () %。 <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路探究」「産業社会と人間」「企業見学」等を通し、いろいろなものを見たり、人の話を聞いたりしながら、「働くとは」ということや「自己の長所や関心」について探究することができた。 <p>【総合学科企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年次、問いの発見を重視した活動を例年通り行うことができた。 	A	<p>【教務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究の授業を通じて、生徒に「探究力」「発信力」身につけさせたと 84.6%の教員が回答。 3年間で系統的に探究活動を行うことで3年次の満足度を高めることができた。 <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究を通して、自己について考え、系列を決め、2年次からの科目を選択することができた。今後は自ら行動を起こし、視野を広げ、必要なことは何かを考える力と行動力を身に付けたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 「課題研究発表会」の成果発表に対する生徒の肯定的評価 平均 80%以上 	<p>【進路課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産社の授業の中で探究活動やプレゼンの基礎について学ぶことができた。 <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートより 85% 	A	<p>【総合学科企画課】</p> <ul style="list-style-type: none"> より良い問いを創るためのテーマの工夫が必要である。 <p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究に取り組む姿勢は良好である。(1月14日現在) <p>【進路課】</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに良いものするように計画を立てたい。 <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が探究したい問いの発見を重視して取り組むことができた(地域探究・各授業等)
エ	体系的なキャリア教育と進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」「進路探求」を通して「設計力」「継続力」を身に付けた生徒 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教員 84.3%、生徒 96.1%、保護者 88.6%が肯定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担当の先生を中心に充実した授業を行なうことができた。

	<p>の充実 (設計力、 継続力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次企業説明会の満足度 80%以上 ・インターンシップ参加生徒の満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員 84.3%、生徒 97.8%、保護者 85.9%が肯定。 ・生徒の満足度 100%。事前指導からしっかりと行うことができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・十分満足する内容であった。 ・参加率をもっと増やしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自己の適性を生かした企業選択ができた生徒 90%以上 ・保護者による就職模擬面接の実施 ・就職希望者の一次募集での内定率 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 97.1%、保護者 85.7%が肯定。手厚い指導で本人にあった企業を選ぶことができた。 ・保護者の進路委員に協力していただき模擬面接試験を行うことができた。 ・一次募集での内定 100%。事前準備をしっかりと行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就職説明会を継続的にを行い、丁寧な指導ができた。 ・協力してくださった保護者の方から大変評判が良かった。 ・売り手市場であることは事実だが、指導してくださった先生方や生徒が頑張った証拠である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者の第一志望達成率 80%以上 ・検討会や会議において必要な情報を関係職員が共有し進路指導に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 94.3%、保護者 92.3%が肯定。第一志望達成率は目標を達成できた。 ・教員 84.6%が肯定。目標や狙いを事前に説明することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本気で準備を開始する時期が遅い。計画的に準備に取り掛かれるように指導したい。 ・さらに検討会の目的や狙いをはっきりとさせて進路指導に敷かせるようにしたい。
オ	<p>地域との連携活動、特別活動、課外活動の活性化と情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育大会、ホームルーム活動等主体的に取り組んだ生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート肯定回答 98.0% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスや年次での関係が築けている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通して、「協働力」「受容力」を向上させた生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート肯定回答 95.3% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動における顧問と生徒の関係が築けているため、次年度以降も継続した指導を行っていききたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究等の授業、生徒会活動、部活動等の活動において、地域との連携・交流活動を活発に実践できた生徒 90%以上 ・「小さな収穫祭」の実施。 	<p>【教務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究等の授業、生徒会活動、部活動等の活動において、地域との連携・交流活動を活発に実践できた生徒 87.4%。 	B	<p>【教務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究や産業社会と人間などの授業で、外部講師を招いたり、外部団体と交流するなど、各担当で工夫した授業に取り組んだ。 ・授業時間で交流を

			<ul style="list-style-type: none"> ・菊川市、地域の教育機関、諸団体との連携・交流を組織的に継続的に推進できたと81.5%の教員が回答。 <p>【福祉科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉探究」の授業において、菊川市内の病院や福祉施設と連携して探究活動を行うことができた。また、児童館において月に1回、定期的に交流活動を行うことができた。また「小さな収穫祭」において、障害者施設と連携して実施することができた。 <p>【生徒課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球部、柔道部、陸上競技部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部、男子バスケットボール部、ソフトテニス部、食品加工部、吹奏楽部などが地域や中学校との交流をしている。文化祭におけるこども園・小学校の交流を行っている。 <p>【農業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな収穫祭において学校生産物の販売や「課題研究」の報告など地域と連携した活動が展開できた。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>企画するのは現実的に難しい部分がある。</p> <p>【福祉科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献しようと前向きに活動する生徒の育成につなげることができた。参加系列を増やすことで小笠高校の魅力をもさらに地域にアピールすることができるのではないかと考える。 <p>【生徒課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も継続していきたい。 <p>【農業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生産物の販売（茶・草花苗・露地野菜）を行うことができた。また課題研究の取り組みも紹介することができた。他教科への呼びかけも行い、工業化とも協力して進めることができた。今後は農業科だけでなく他教科とも協力し
--	--	--	--	----------------------------	--

					ながら進めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会が「地域とともにある学校」をめざし、学校運営に対する支援の拡充に向けて協議する場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会があまり機能していない状況である。職員対象のアンケートでも肯定的な意見は64.1%にとどまっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数及び時期について検討が必要である。対面での実施に代えて書面で意見を求めるなどの工夫が考えられる。
		<ul style="list-style-type: none"> 校ホームページ/インスタグラム記事のアップロード数が月平均20本以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ/インスタグラム記事のアップロード数月平均20本以上 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各団体のインスタグラムの統合・リンクを進める
		<ul style="list-style-type: none"> 一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 86.7% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日程・資料・地図・案内やトイレなど設備改修への要望などさらなる改善に取り組む
カ	教育環境の整備と事務業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備により、教育の質が向上した、あるいは、業務が円滑になった、業務が軽減したと回答する教諭が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備により、教育の質が向上したと回答する教諭が86.5%、業務が円滑になった、業務が軽減したと回答する教諭が80%となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全体への周知はもちろん、個々の質問にも迅速に対応し、教諭のICT使用の意識向上に努めた。また、教務課の依頼により、百問繚乱の使用環境に尽力し、業務軽減に貢献した。今後はNES端末の更新や共有パソコンの整備、貸出備品の整理に尽力していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 職員の要望を取り入れた図書資料の整備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員からの要望を定期的に集約し、図書資料の充実を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 要望があった図書資料は購入することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 危険回避の観点で施設・設備の補修を行う。 備品等の購入を、優先順位を明確にして的確に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備について危険回避の観点で補修を行った。 予算の減少・物価の高騰により教育備品については整備が難しかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備が老朽化しており修繕していくことが困難である。 経営予算は、経常的支出で消化され厳しい状況である。限られた予算で学校経営に支障のない予算執行を行う。
キ	職員の勤務状況改善及び職員の資質向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務を精選・整理した分掌等90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の精選と効率化を図ったと回答した教職員は84.6% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を念頭に、さらなる業務改善の必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の内容満足度 85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ICTに関わる校内研修会におけるアンケート結果 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会のアンケート結果や教職員の意見を参考にしながら、来年度

様式第3号

			より、職員満足度は、第1回が100%、第2回が90.7%であり、充実した研修会を行うことができた。		も職員満足度が85%を上回るよう職員の要望を聞きながら企画していく。
		・各月の完全退庁時刻以前に退庁できた日の割合が80%以上	・勤務時間管理を適正に行い、各職員が設定した定時退勤日を設けた 73.7%	B	・業務が集中する時期はどうしても忙しい。